

# PL-FR000

## 取扱説明書

PL-FR000 (フラッシュROMボード)は(株)デジタル製パネルコンピュータシリーズ(以下PLと称します)用のフラッシュROMボードです。2Mバイト×2ドライブの読み込み専用ディスクとして使用できます。

本書に記載の商品名や製品は、それぞれの所有者の商標です。



### 警告 安全に関する使用上の注意

- PLへの取り付け時は感電の危険性がありますので、PLに電源が供給されていないことを必ず確認して取り付けてください。
- PL-FR000は改造しないでください。火災、感電の恐れがあります。
- PL-FR000を取り付ける際には、本書の「4. 取り付け」をよく読んで、正しく取り付けてください。
- PLは航空機器、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命の維持に関わる医療機器などの極めて高度な信頼性・安全性が求められる用途への使用を想定しておりません。これらの用途には使用できません。
- PLを運送機器(列車、自動車、船舶等)、防災防犯装置、各種安全装置、生命の維持に関わらない医療機器などの、機能・精度において高い信頼性・安全性が求められる用途で使用する場合は、組み込まれるシステム機器全般として、冗長設計、誤動作防止設計等の安全設計を施す必要があります。

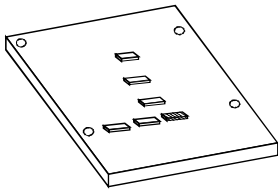
### 故障しないために

- PL-FR000は精密機器ですので、衝撃を与えないでください。
- PL-FR000に水や液状のものや金属が付着しないようにしてください。故障や感電の原因になります。
- 直射日光に当たる場所や高温の場所、ほこりの多い場所、振動の加わる場所での保管および使用は避けてください。
- 薬品が気化し、発散している空気や薬品が付着する場所での保管および使用は避けてください。
- 電源OFF後の電源再投入は、3秒以上経過した後に行ってください。
- 勝手に修理や改造を行わないでください。
- ファイルの破損を防ぐため、必ずOSを終了してからコンピュータの電源を切るようにしてください。

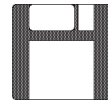
## 梱包内容

梱包箱には、以下のものが入っています。ご使用前に必ず確認してください。

PL-FR000 本体



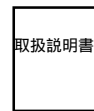
フロッピーディスク 1枚  
ROM DISK 書き込み用  
ユーティリティソフト



取り付けネジ 4本



取扱説明書 1枚(本書)  
PL-FR000 取扱説明書



品質や梱包などには出荷時に際し、万全を期しておりますが、万一破損や部品不足、その他お気付きの点がありましたら、直ちに販売店までご連絡くださいますようお願いいたします。

# 1 PL-FR000 の特徴

PL-FR000 は 2M バイトのフラッシュメモリを 2 個 ( BOOT 用 ROM DISK とアプリケーション用 ROM DISK ) 搭載しており、2M バイト × 2 ドライブ、合計 4M バイトの読み取り専用ディスクとして使用できます。



- ・ PL-FR000 を 4M バイト、1 ドライブとしては使用できません。

## BOOT 用 ROM DISK

内蔵拡張 BIOS による A: または B: ドライブ ( ディップスイッチにより切り替え ) のフロッピーディスクエミュレーションとなり、A: ドライブに設定した場合はブートドライブとしてオペレーティングシステムの起動に使用することができます。

容量は 1984K バイトに固定、階層ディレクトリはサポートしていません。書き込みソースディレクトリはネットワークドライブ上でも使用できます。ただし、システムファイルと IPL プログラムは書き込み作業を行うマシン ( PL ) に接続された物理的なディスク装置上になければなりません。

## アプリケーション用 ROM DISK

デバイスドライバによって制御されます。

容量は 2048K バイトに固定、階層ディレクトリはサポートしていません。書き込みソースディレクトリはネットワークドライブ上でも使用できます。

### ・ドライバ組み込み方法

CONFIG.SYS に以下の 1 行を追加します。

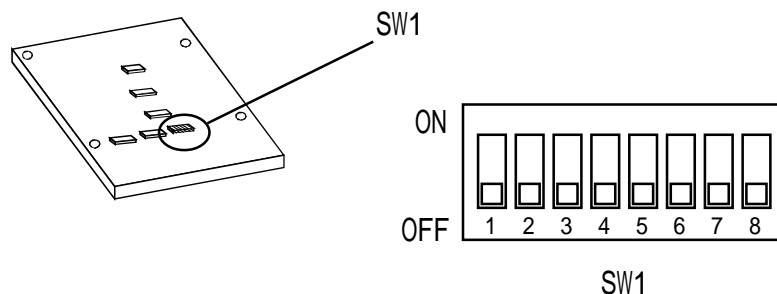
```
DEVICE=[ ドライブ名: パス名 ] PLFRDV.SYS
```

### ・ドライブ名

ドライバ組み込み前に MS-DOS に組み込まれているドライブの次のドライブ名が割り当てられます。

## 2 ディップスイッチの設定

PL-FR000 上のディップスイッチを設定することにより、BOOT 用 ROM DISK のドライブ名および割り込みベクターを設定します。



SW1-1 ... BOOT 用 ROM DISK のドライブ名を設定します。

ON ... A: ドライブ

OFF ... B: ドライブ

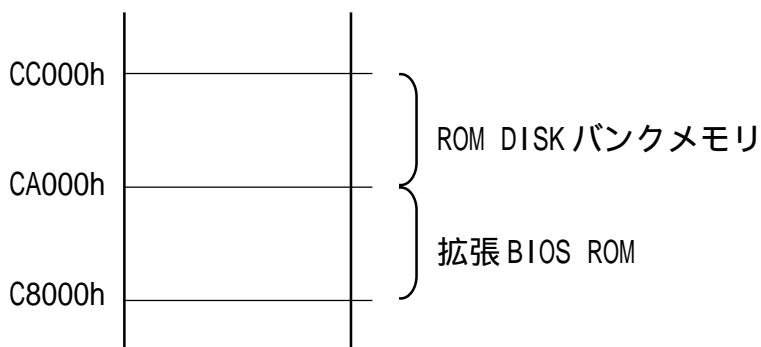
SW1-2 ~ SW1-4 .... 割り込みベクター番号を設定します。

SW1-2	SW1-3	SW1-4	ベクター番号	SW1-2	SW1-3	SW1-4	ベクター番号
ON	ON	ON	68h	ON	ON	OFF	6Ch
OFF	ON	ON	69h	OFF	ON	OFF	6Dh
ON	OFF	ON	6Ah	ON	OFF	OFF	6Eh
OFF	OFF	ON	6Bh	OFF	OFF	OFF	6Fh

SW1-5 ~ SW1-8 .... 未使用。

### 3 メモリ構成

#### ISA-BUS メモリマップ



#### I/O マップ

I/O アドレス 16Ch ~ 16Dh

#### 割り込みベクター

拡張 BIOS が割り込みベクターテーブルを 1 エントリー使用します。ディップスイッチの設定により、INT68h ~ INT6Fh の中から 1 つを選択します。 **参照** 2. ディップスイッチの設定



- ・ EMM386.EXE 等のメモリマネージャや他のオプション等を使用する場合は、PL-FR000 で使用しているアドレス (C8000 ~ CBFFF) を使用しないでください。

例) マイクロソフト社製 EMM386.EXE の場合

DEVICE=EMM386.EXE RAM X=C800-CBFF

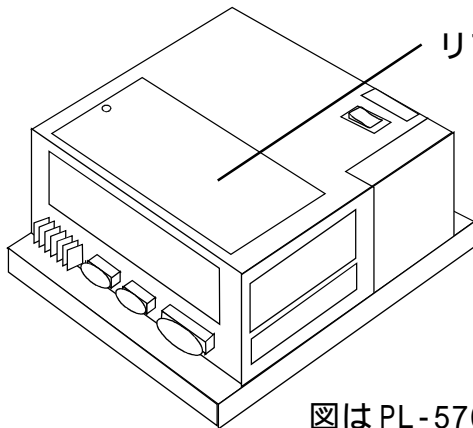
## 4

## 取り付け

以下の方法で PL-FR000 を PL へ取り付けてください。

 **警告**

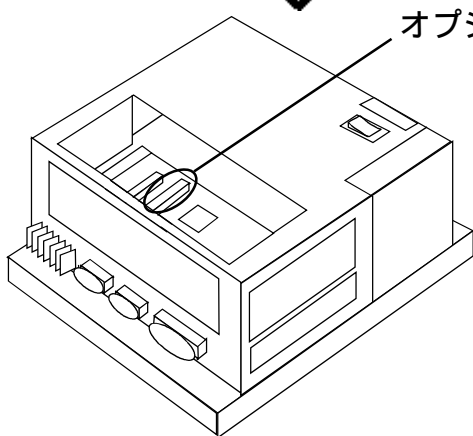
- ・ 感電の恐れがありますので、必ずPLの電源を切ってから作業を行ってください。



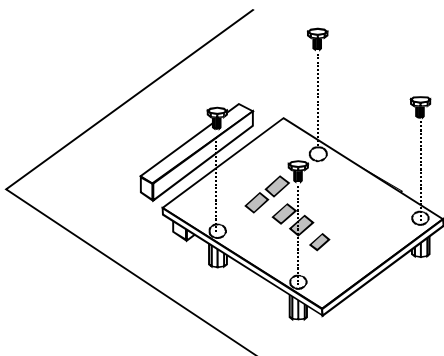
リアメンテナンスハッチ

PLのリアメンテナンスハッチのネジ2カ所を外し、リアメンテナンスハッチを取り外します。

図は PL-5700T1 (3 スロットタイプ) です。



オプションボード用コネクタ



PL-FR000をオプションボード用コネクタに接続し、付属の取り付けネジ(4本)で固定します。



- ・ ネジは強く締めすぎると、破損する恐れがあります。

リアメンテナンスハッチを元に戻し、ネジ止めします。

## 5 ROM DISK への書き込み

ROM DISK 書き込み用ユーティリティソフトを使って、拡張 ROM DISK BIOS で制御される BOOT 用 ROM DISK とアプリケーション用 ROM DISK にデータを書き込みます。

### 書き込み手順

ROM DISK 書き込み用ユーティリティソフトを FDD ユニットから立ち上げる場合、フロッピーディスクに入っているデータを書き込む場合、およびフロッピーディスクに入っているシステムファイルを使用する場合は BOOT 用 ROM DISK のドライブを B: ドライブに設定しておいてください。**参照** 2. ディップスイッチの設定

ROM DISK へデータを書き込む手順の例を以下に示します。

```
A:>MKFR000  .....
MKFR000 Version 1.00
Copyright (c) 1996 Digital Electronics Corporation

Destination drive number(0/1)? 0  .....
Source directory name ? A:¥TEST  .....
Make boot disk (Y/N) ? Y  .....
Enter boot drive name (A/C) ? A  .....
Strike ENTER when ready.  .....

Complete. ....
```

あらかじめ PL-FR000 を PL に取り付けておきます。

### **参照** 4. 取り付け

ROM DISK 書き込み用ユーティリティソフトを立ち上げます。



- BOOT 用 ROMDISK に書き込みを行い、システムファイルを転送する場合には、システムディスクのルートディレクトリから立ち上げてください。

例) A :>MKFR000  または、  
B :>MKFR000

BOOT 用 ROM DISK に書き込むか、アプリケーション用 ROM DISK に書き込むかを指定します。

0: Boot 用 / 1: アプリケーション用

書き込むデータのあるディレクトリを指定します。

BOOT 用 ROM DISK に書き込む場合は、システムファイルを転送するかどうかを指定します。

Y: 転送する / N: 転送しない

システムファイルを転送する場合は、システムディスクのドライブ名を指定します。

A: フロッピーディスクドライブ / C: ハードディスクドライブ

準備ができれば[Enter]キーを押してください。

“Complete.” と表示されれば、書き込み完了です。

#### お断り

本製品を使用したことによるお客様の損害および免失利益、または第三者からのいかなる請求につきましても、当社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

株式会社 デジタル

〒 559-0031

大阪市住之江区南港東8-2-52

T E L (06)6613-1101 (代)

F A X (06)6613-5888